

藍の生葉染め

西東京花の会ハーブ勉強会

2020.8.14

いこいの森公園ハーブガーデンの藍を使って綿のエコバックを染めてみましょう。

藍から出来る染料のインディゴの青色は水に溶けない性質ですが、生葉に含まれるインディゴに合成される前の成分インディカンと酵素を水にもみだして色をつけることが出来ます。

今回は密にならないように個々で作業をお願いします。ご自分のお好みの色に仕上げてください。

材料

- ・豆乳で下処理した綿のエコバック（無印良品 B5 サイズ） 1枚 35g
- ・藍の生葉（布の2～3倍程度）

準備するもの

- ・ビー玉やおはじき、ペットボトルのふた等模様をつけるもの 輪ゴム
- ・ゴム手袋 ・ハサミ ・不織布水切りフィルター ・ビニール袋 ・ボウル
- ・水 ・あればオキシドール

染め方

- ① 布バックにビー玉などで模様を作る
- ② ①を水の入ったボウルに浸けておく
- ③ ガーデンの藍を摘み取る
- ④ 葉と茎に分ける
- ⑤ 葉を一人80～100g程度不織布フィルターに取る
- ⑥ 不織布フィルターの中でハサミや指を使って葉を細かく刻む
- ⑦ ②の布バックを軽く絞り取り出しておく
- ⑧ ⑥のフィルターの口を縛り、ビニール袋に入れる
- ⑨ 空いたボウルを使い、⑧のビニール袋に水を少しずつ入れて布バックが浸かるくらいの水の量まで水の色が濃い緑色になり、藍の葉をねばりが出るくらいもみだす
- ⑩ ⑨の取り出しておいた布バックを浸ける
- ⑪ ムラが出ないように布を揺らしながら10分程度浸し続ける
- ⑫ ボウルに水1Lにオキシフル4ml加えたものを用意する*
- ⑬ ⑪の布バックを軽く絞り⑫にいれすばやく酸化させる*
- ⑭ 外のホースを使い排水溝の側で青色が出なくなるまでゆすぐ
- ⑮ 太陽の光に当てて干して出来上がり

*⑫⑬はなくても良い